

星屑

VOL. 249
December '95



撮影データ

題 ダイヤモンドリング

撮影者 永井剛

撮影場所 タイランド ナコンサワン にて

1995年10月24日 10時48分50秒

ソニー8ミリビデオカメラにて撮影 ネガカラーでコピー

ただ今ビデオ編集中のこと、近々天文台にて上映会があります。

熊本県民天文台

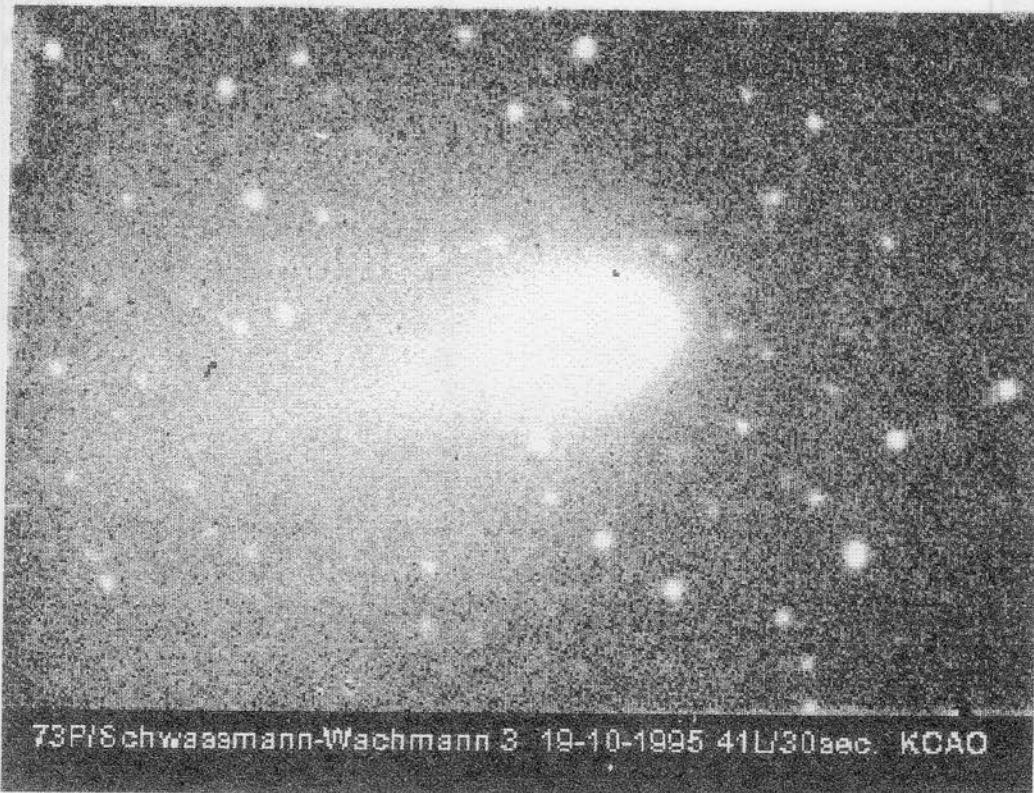
COMET PAGE

PORCO NUSSIE

10月は朝と夕方の両低空に2個の彗星が5等級となって輝きました。小さな双眼鏡で楽に見えたのですが、会員の皆さんは見られたでしょうか?このような星のニュースは、まずテレビや新聞に載りませんので、天文ファンといえども見逃すことがが多いものです。この星屑も月に一度の発行ですから、このページを見てももう遅いことになります。KCAOでは、会員向けに KCAO/NET というパソコン通信でほうき星のニュースをいち早く伝えています。ただし、彗星のように・・・という表現があるように、毎日ニュースがあるわけではありません。前触れ無く突然報道されますので、気長にネットにアクセスしておく必要があります。なお、このネットは会員であれば無条件、無料で加入できます。

では、例によって彗星の晴れ(?)姿を紹介しましょう。今回は前号でも伝えたジュワスマンーワハマン第3周期彗星の姿からです。

▼73P 19-10-1995



73P/Schwassmann-Wachmann 3 19-10-1995 41L'30sec. KCAO

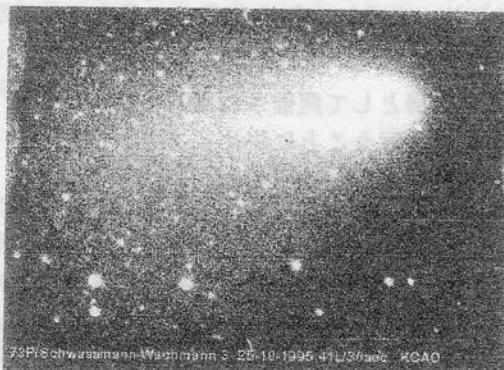
★ 73P/Schwassmann-Wachmann 3

9月中旬に8.3等と観測されたこの星は、10月上旬になると各地で5-6等級と観測されました。熊本は、悪天候のため19日になってやっとその姿を捉えることが出来ました。

なんと光度は5等級で、明るく輝く頭部は薄明の青空の中で双眼鏡でも見えました。東側には大きく拡がった尾があつて、その中央にはイオンの尾と思われる細く明るい構造が確認できます。

▼ 73P

25-10-1995



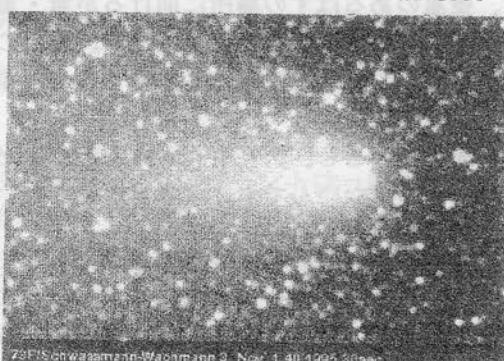
73P/Schweissmann-Wachmann 3 25-10-1995 41L/Short KAO

このころの予報光度は 12等ですから 7等もの増光をしたことになります。1930年に発見されたこの星は、その後 1979年の再発見まで 49年間見失わっていました。軌道の不確かさもあったのでしょうか、こうした不安定な光度変化が原因だったのかもしれませんね。ですから、今回これだけ活発な活動を示したからといって、次回も明るくなるとはとても思えません。今回帰の活動を詳しく記録することは重要で、これからも観測を続行したいものです。

KCAOでは、機会あることに 41cmLをこの星に向けています。10月25日(上図)と11月1日(下図)の画像からでもその変化を見ることが出来ます。さすがに近日点を通過したので、徐々に減光しています。

▼ 73P

1-11-1995



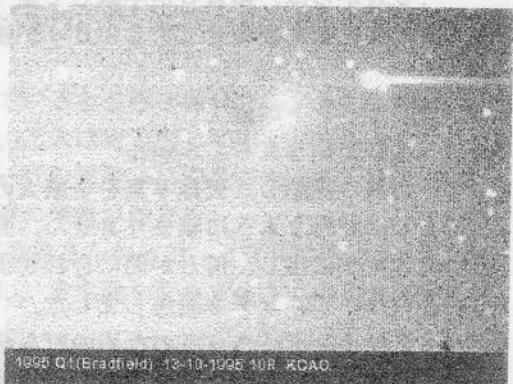
73P/Schweissmann-Wachmann 3 Nov. 1-40-1995 20sec

シュワスマントワハマンの名前が付いた彗星は 3個あります。彼らの第1彗星は、ほぼ円軌道を描きながら、増減光を繰り返すという彗星らしくない彗星として知られています。

★ C/1995 Q1(Bradfield)

8月、南天で 5等で輝いたこの星は、9月下旬に見え始めました。光度はほぼ予想どおりで、7-8等程度でした。通常の尾は非常に淡いものでしたが、これまた予想どおりのアンチ・テイルが観測できました。9月に地球がこの彗星の軌道面を通過したためです。この尾から、近日点近くで放出された割合新しいダストで構成されているのがわかります。

▼ C/1995 Q1(Bradfield) 13-10-1995



1995 Q1(Bradfield) 13-10-1995 10R KAO

★ 122P/de Vico

発見後この星は北東に移動を続け、10月10日頃 C/1995 Q1と 5度程度に接近しました。北西に細長いイオンの尾を持つこの彗星と南東にアンチ・テイルを持つ 1995 Q1彗星がお互いに尾を向かうという、おもしろい光景となりました。(上図と下図を参照)

▼ 122P/de Vico

13-10-1995



122P/de Vico 13-10-1995 41L/30sec (C)KAO

盛り上がった！県民文化祭・スターウォッキング

10月21日～10月29日

報告：艶島 敬昭

今年の県民文化祭は、宇土・下益城地区を会場として開催されました。

県民天文台も、協賛してスターウォッキングを行うことに決め、22日（日）には「昼間の星を見よう」をテーマに、そして、28日（土）には「輪のない土星を見よう」をテーマに2つの大きなイベントを計画しました。28日には長崎のトミタ天体観測会の50cmドブソニアンも駆けつけました。インターネットの実演も交えたイベントの熱気をお伝えしましょう。

9月からは、運営日が半減して金・土・日の3日間/週となったばかりの天文台ですが、県民文化祭に合わせて忙しい日々が続きました。

1. イベント準備：

1) 天体写真パネル制作

会員の撮影した天体写真を全紙大のパネルにして展示しようと計画。写真を募集していましたが思うように集まりません。会期直前になってようやく集まり、一覧表を作成して焼き付けに出し、何とか間に合わせましたが、慌てた写真屋さんが違うコマを引き延ばすというハプニングも発生しました。

2) インターネットのための打ち合わせと工事

ISDN回線を臨時に引き込んで、高速なインターネット接続を実現するための準備です。NTT・城南町役場との数回の打ち合わせと工事立ち会いを経て、20日やっと準備完了。

3) 取材その1

14日、城南町からの取材。観望風景を写真撮影して行かれました（「広報城南」向け）。

2. イベント第1弾

22日、昼から天文台公開。今年は、金星の太陽からの離角が小さくうまく見えるか心配でした。当日は雲の多いお天気で、始めたときは一面の雲。ようやく太陽を捕らえ、アストロスケールに位置を入力する。それから、金星のあるはずの場所に向けるが雲・雲・雲。

時々晴れ間が通るけど、ファインダー内は明るく金星の気配さえ見えない。臨時のフードをファインダーにつけてみてうまく行かない。お客様は次々やってくるし、焦ってしました。

先日の雷被害の後遺症で、駆動装置は半分壊れているし、テレトレも死んだままだし、頼みのアストロスケールも、昼間の空では今一つ頼りないんです。（本当に頼りないのは誰か？の腕だという声！！）

金星よりも離角の大きい木星などもチャレンジしてみましたが、どれもうまく行きませんでした。

結局、望遠鏡と流れる雲を観察して、一般公開（昼の部）はお終いです。
その間、階下ではインターネット実演が大人気でした。

3. 取材その2

26日、メインイベントの28日の雰囲気を事前にテレビで伝えようと、NHKの取材班がやってきました。18時30分からの生放送というので、こちらはスタッフ不足。しかも、イベントと同じようにビデオプロジェクターでは輪のない土星の映像を、C-8や、

31cmドブソニアンも用意し、パソコンでは土星の画像と、内容は盛りだくさん。

22日の不完全燃焼をぶつ飛ばそうと、28日への意気込みの全て、こちらの手の内を全部お見せするつもりなのです（50cmドブソニアンだけは別）。

5時間ほどかかってあれこれ片づけ、準備し、リハーサルをして、4分間ほどの放送は無事に終了しました。

4. イベント第2弾

28日（土）、久しぶりに土曜日の勤務だった私は、16時に仕事場をでて、天文台へ。

途中で見上げる空は、どんよりと曇っていて心配が募ります。城南町に入ってからは、雨さえボツボツと落ちて来るではありませんか！！

うーん、これでは30個もの弁当を抱えて大変なことになるぞ、と悪い予感。しかし、日頃の行いが良いせいもあり以上お天気は崩れず、次第に青い部分が見え隠れするようになりました。

天文台に着いて、中島副台長と打ち合わせをしているところへ西嶋さんが来て、城南3人組がそろう。何はともあれ「宴会の準備に」と、二人は買い出しに出かけました。

一人になったところへ、長崎から「トミタ」御一行の到着。出迎えがたった一人なのですごく申し訳ない気分。挨拶もそこそこに、望遠鏡の準備が始まる。

それから、次々と問い合わせの電話。ほとんどが会員さんからで、「今日は中止ですか？」というもの。「いいえ、トミタさん達も来ているし、予定通りやります！」と答えると、「じゃあこれから向かいます」との返事。

天文台周辺には、5時前から小学生たちの一団体が、まだか！まだか？と待っています。トミタのドブソニアンが組み立て始められると、もう大変。まわりに集まって、身動きがとれないほどです。

月や木星も晴れ間に見えるので、「見えているうちに始めるか！？」と、公開を開始したのは予定よりも1時間も早い18時でした。

あとは、皆手慣れたもので、ビデオプロジェクターもインターネットも、望遠鏡も、それぞれ大活躍でした。私は、途中からずっとインターネットの実演をやっていましたが、兄弟らしい二人の小学生がずっとパソコンの前を離れず、次々と質問を続け、あちこちとつないでほしい所を指定してくれました。お陰で、こちらも全く退屈せずにすみました。帰り際、何度も呼びに来てくれた両親に向かって、パソコンを買ってくれるように催促していたようです。「10歳になつたら、買ってくれるって言ってたでしょう？」...

5. 交流会

10時過ぎには、イベントは一段落。長崎から来て下さったトミタの御一行と楽しい交流会の始まりです。日曜日仕事の方もいらっしゃって、「夜半には帰る」とのことなので、早く「交流会」が始められて良かった。ほどほどの天気で、どちらも旨く行って良かったのかも知れませんね！

少しのお酒で真っ赤になってしまった富田さんでしたが、しきりに冷却CCDのことやインターネットのことを質問していらっしゃいました。今や、「ハイテク」、「最先端」が我が天文台のキーワードになっています。

でも、ねじ山がすり切れるほど活躍している50cmドブソニアンと、それを運んであちこち飛び回っていらっしゃるトミタの皆さんとのエネルギーには、見習うべきものがあるようを感じました。

夜半過ぎ、トミタ御一行を見送ったあとも、「宴会」は続いたのでした...

一連のイベントを手伝ってくださった皆さん、ご協力有り難うございました。

タイ皆既日食ツアーに参加して [第一報]

永井 剛

日食病にかかるか否かは別として、一生に一度は 経験しておきたかった、皆既日食の観測に、初のトライで幸運にも晴天に恵まれ、みごと大成功を収めました。そこで、この度のツアーに、下見から観測指導までして下さった、山口県天文協会の小林正照会長さんや、阪急交通社の皆さんに感謝しながら、大まかなところを、先ずは報告しておきましょう。

出発は10月22日(日)の早朝、3泊4日の旅でした。

福岡空港8時半集合に、少し早めにとのことで、博多駅近くのホテルを7時半に出発。これは、いつも9時半ごろ出勤の私には、少々つらいことでした。

しかし、そのため朝食を抜いたことが、後で旨くいくのです。

10時20分発で、台北に11時35分着。でも私の時計は12時35分。
1時間の時差があったのです。この間に機内食(チキン・キジヤキ・ライス)。

台北発12時30分で、バンコク着は15時10分。ここでも、また時差が1時間ありました。そして、この間にまた昼食です。

飛行機は中華航空機(帰国後にテレビのニュースで、名古屋空港での事故を思い出したにぶい私でした。)、しかし、快適な空の旅でした。

2日目の10月23日は、観光と観測地の下見が予定されていたのですが、下見の希望者が0名とのことで、観光だけとなります。

先ずはバンコクの王宮とエメラルド寺院です。休日のためか、迷子になりそうな人出の中で、金ピカや色あざやかな建物が目をうびます。

ショッピングと昼食(バイキング…暑いのでマンゴーやパインを存分に)の後は、北に進んでアユタヤへ。予定のアユタヤ遺跡は、水害のため見学できず別の古い味のある寺院へ。そして、アユタヤに一泊。プールのあるホテルから、メナム川の向こうに輝く夕日で、8ミリビデオのテスト撮影をした後、早めに床につきました。なにしろ、明日の起床は3時半というのですから。

3日目の10月24日、いよいよ日食の日です。4時50分にホテルを出た3台のバス(参加者83名)は、パトカーの先導で、北へ走ること172キロ、ナコンサワン(ナコン…都、サワン…天国)へ向かいます。

午前7時15分、着いた所は観測地のパチャヌーコ中学校です。

校長先生はじめ多くの先生方に迎えられた後、それぞれに観測の準備です。時計合わせをした後、ミネラルウォーターを一本ずつ貰って元気をつけ、快晴の青空に輝く太陽の欠けるのを待ちます。現地からの参加者も大勢です。

皆既食が近づくと、辺りからパン!パン!…と銃声がひびきます。祝砲です。やがて、大きなどよめきが起こりました。ダイヤモンド・リングです。これを見たくて私はここまでやって来たのです。満足です。ファインダーを覗くだけではいけない、肉眼でも見なければと、空を見上げたのですが、目のピントが合わず、金環食に見えてしまいました。

あとは、復習や追加をしながら 次号の続報へ……つづく。

☆ 12月の天文現象＆行事 ☆

- 6日 ペライン・ムルコス周期彗星が近日点通過（周期6.80年）
- 7日 満月（21:24）
- 9日 月の距離が最遠（406323Km）
- 14日 ふたご座α流星群が極大
- 15日 下弦（16:51）
- 22日 新月（11:22） 冬至
月の距離が最近（356791Km 本年最近）
- 23日 こぐま座β流星群が極大
- 25日 クリスマス
- 29日 上弦（15:28）
- 31日 大晦日

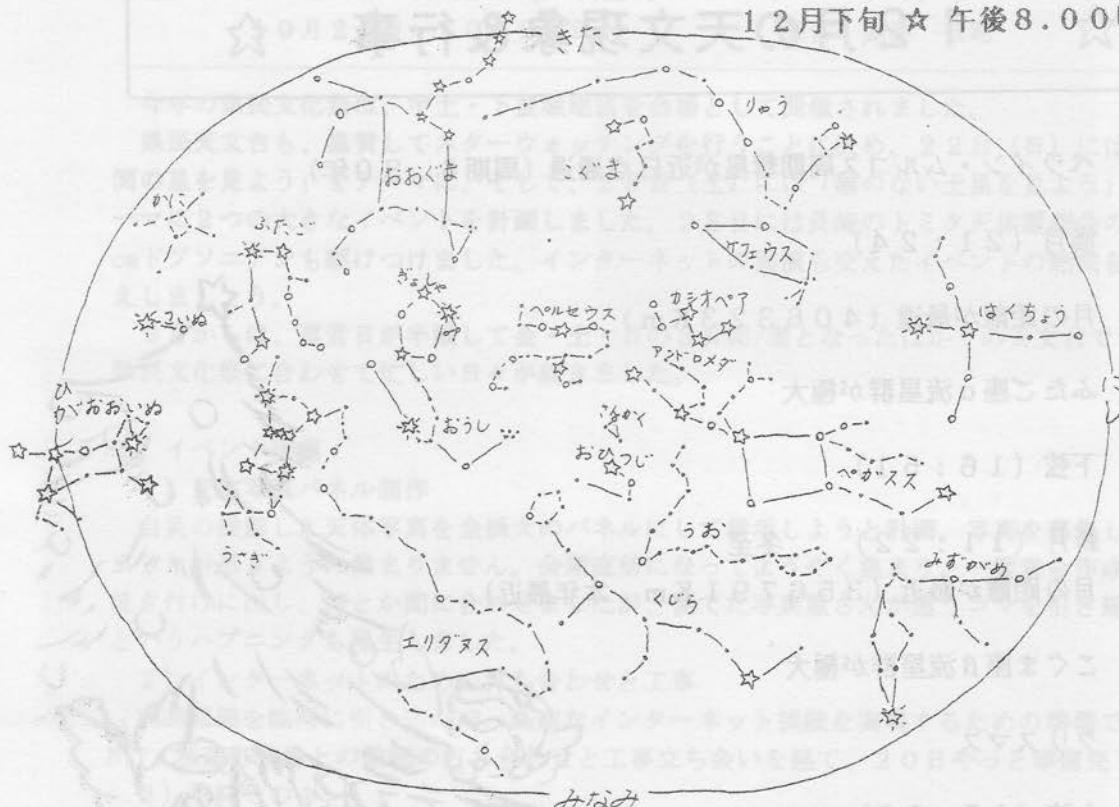
番外編 大掃除が、12月にあります。
詳しくは、天文台まで。



K e i k o の 星空散歩

12月上旬 ☆ 午後9.00頃

12月下旬 ☆ 午後8.00頃



△1等星 ☆2等星 ○3等星 ·4等星以下
麒麟座 (Camelopardalis...Cam)

動物の名前の付いた星座を調べた時、きりんまで有ったのん感心したのですが、
17世紀の始め頃作られた星座だそうです。割りと大きな星座なのですが、
4等星がやっと2つあるだけで、
とても見つけにくい星座です。

大熊・小熊・ケフェウス・
カシオペア・ベルセウス・
ぎょしゃ・やまねこ（これも又、
見つけにくいですね）座に囲まれた

何も無い處？！です。

暗い所で目を凝らして見ると

Y字形に並んだ星達が見えるかもしません。

元々この星座は”らくだ座”として作られたそうなのですがラテン語の”らくだ座”とギリシア語のきりんの綴りが似ていた為、混同されて、何時の間にか”きりん座”が定着してしまいました。まあ、らくだもきりんも似てると言えば似てるかな？



～'95年9月、10月天文台運営日誌より～

・9月開台率: 6(開台した日数) / 14(金、土、日の日数) × 100 = 42.9 (%)

・9月来台者数: 140(お客様の数のみ)

日付	天気	来客数	運営	記事【会員利用者】(日誌記入者)
1(金)	晴軒雲	4人	中島、中尾 西島	木星、月、土星、ミサール&アルゴル [艶島](中島)
9(土)	快晴	74人	木村、中島 西嶋、松野 小林、山口	月、木星、土星 何と、募金箱に“ビール券”が入っていた 誰が「のんべえ」に見えたのか…！！ ありがとうございました。ありがとうございます。 (木村)
10(日)	曇	0人	艶島	与論島から帰って来た。木星が見えるので運営に来たが、お客様0。サンゴと熱帯魚がいっぱいの海はとてもきれいだった！ サンセットクルーズも、低い雲への日没でいまいち。残念！ (艶島)
15(金)	曇軒晴	2人	松野、中尾 長谷、西嶋	土星、ダブルダブル、ベガ、アルビレオ、M57。 曇ったなーと一度閉めたらお客様が来た。 (西嶋)
16(土)	晴	40人	松野、中島 艶島、中尾 清田、木村 小林、甲斐	土星、アルビレオ、M57、アンドロメダ星雲、M13、天王星、 アンタレス。 今日は台風の影響でseeing(星の見え具合)が悪く、木星が (望遠鏡の視野の中で)揺れていた。 天頂付近(を見るときに)も風で吹き飛ばされそうになった。 (木村)
17(日)	晴	20人	艶島、甲斐 中尾、小林 西嶋	木星、土星、天王星、海王星、M24、M13、M31、M57、M27 M4、アンタレス [小林](甲斐)

・10月開台率: 8(開台した日数) / 13(金、土、日の日数) × 100 = 61.5 (%)

・10月来台者数: 146(お客様) + 200(県民文化祭) - 346(会員利用者除く)

日付	天気	来客数	運営	記事【会員利用者】(日誌記入者)
6(金)	晴	0人	西嶋、長谷	月はあったけど、誰も来ない (長谷)
13(金)	晴	10人	小林、西嶋 中尾	木星、土星、M31、M57、M27、ダブル ² 、アルビレオ、月 なんだか、いろいろ不思議な人が現れた日でした [上野、中島、艶島、学生数人](西嶋)
14(土)	晴	14人	清田、松野	木星、土星、アルビレオ、ww、アンドロメダ、スバル (松野) 21:50来台。土星、wwを撮影。来たときには晴れていたのに、 撮影を始めてから急速にもやがててきた。悲しかった。(敷田)
20(金)	晴のち曇	13人	小林、西嶋 立川、長谷 中尾、艶島	木星、土星、M31、M57、M27、M13、アルビレオ (中尾)
21(土)	晴	17人	中島、松野 山口、敷田	土星、ww、M31、アルビレオ、ベガ [熊大天文研究会数名](松野)
22(日)	曇軒晴約 昼の部 (県民文化祭)	200人	艶島、松野 岩永 学生2人 社会人2人	金星は太陽に近すぎて見えず、木星は暗くて発見できず、 あれこれ探したが、雲もあって「昼間の星」は全滅！！ Internet実演はNTTの岸田さんが頑張ってくださいました。 (艶島)
22(日) 夜の部	晴	25人	艶島、松野 山口、甲斐 敷田	木星、土星、ww、M31、M57、ベガ 晴れたり曇ったりで何を見せようか迷ったあげく殆どがいまい ち。 [佐伯](山口)
27(金)	晴軒雲	31人	西嶋、長谷 小林	A B Cの取材。県民文化祭の模様を撮っているとのこと 月、土星、ベガ、アルビレオ、ww、M57、すばる 19時前から10人近く待っていました。しかし、始のころは合 わせるとすぐに雲が…。 (西嶋)
28(土)	晴軒雲	36人	中島、艶島 松野、清田 西嶋、中尾	花園小学校4の2(28名)が来台。 土星・富田さんの50cmで月とM57 (松野)

☆土星観測会（観望会）のお知らせ☆

11月19日に今年3回目の土星の環消失があります。今年最後の土星の消失で、しかも時間の条件もばっちりです。これを機会に、ご覧になられてない方も、いっぱい見た、という方もいかがでしょうか。今年最後です、是非ご覧下さい。

時 11月19日 19:00~24:00

場所 熊本県民天文台にて

これを見逃すと、しばらくは見れませんヨ。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
うーっ寒ー。いきなり冬がやって来た感じですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。バイク乗りにはちょっと辛い季節ですが、私は今のところ風邪もひかず、あちこちと走り回っております。（だれ、転がってるっていったのは！！）いやー、このまえ早起きしてデビコ彗星を見ました。写真もちょこっと撮りましたが・・・。いやー、早起きというよりは徹夜そのまんまで天文台へ行きましたが、午前3時ぐらいって真っ暗なんですね。とっても良く星が見えて、しかも、お目当てのデビコ彗星も良く見えました。私でも探せましたヨ。しばらくして東の空が、紺色からオレンジ色のグラデーション、その中に水星がピッカリと光って「うーむ」とっても綺麗。たまには明け方まで天文台で星を見るのもいいですね。町の光害が気になりませんよ。明け方までの観望会なんて良いかも。えっ、誰が運営するのかって・・・（＾＾；

えー、今年も一年間無事に星屑が発行できました。お読み頂いた皆さん。有り難う御座いました。来年も頑張りますので、宜しくお願ひ致します。

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1995年12月号 通巻249号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作